

質問者



松本一二美 議員

Q

ごみ袋収益は、特別会計で！

A

一般会計に繰り入れます

問 指定ごみ袋導入によるごみの現状はどうか。

収益及び決算の仕方は、特別会計にすべきではないか。

ごみ収益は、目に見える使い方を提案。

*コンポスト設置希望

者への補助金の増額。

*ごみステーション整備事業推進を。

弱者に対しては一定量の無料配布を。

答 佐伯助役

ごみの現状は、導入2ヶ月経過した11月末で、25%減量しています。

違反者も激減しており、住民のごみに関する減量や分別の意識が浸透してきていると考えます。

指定ごみ袋は、11月末で約65万枚販売され、販売総額は2,000万円余、作成費用が約1,500万円、販売委託料が約200万円、町収益



ごみ収集場

は300万円余の見込みです。

コンポストへの補助金の増額は、すでに交付している方との公平さを保つために、今のところ考えていません。

ごみステーション整備は、これからも地域の皆さんが自主的に作るようお願いしていきたいと考えています。

無料配布は、対象者の把握や適正な配布が難しく、応能負担を求めていることから、今のところ考えて

いません。

問 福祉センター職員
の意識と対応は

福祉センターは、松前町の福祉の顔である。

今年度から専任の責任者を置いたことで、より良い取り組みを期待しているが、町民の声として「職員の対応は、利用し辛い雰囲気」との苦言を耳にしている。

委託事業ではあるが、町は、1,000万円の補助金を出している立場から、福祉センター職員の意識と、対応についての考えを伺う。

答 公平な管理運営
するよう通知

白石町長

福祉センターは、今年度から指定管理者として社会福祉協議会に業務委託しています。

基本的な考え方として、町の公の施設であること、町民の公平な利用に供する

よう管理運営を行うことを遵守するように通知しています。

問 配食サービスの改善を

配食サービスは元気を届ける大事な事業である。

「個人負担は変わらないのに質が落ちたのは、どうしたか」と、不満の声が多い。

食は健康の元であり、楽しみであるはず。

町としての配食サービスの考え方と、改善を要望。

答 事業者と協議

白石町長

配食サービスは、高齢者が自宅で健康で自立した生活が送れるように、食の自立支援事業として平成9年度から実施しています。

今年度より、国庫補助事業が廃止されたのに伴



福祉センター

い、個人負担金400円は変わりませんが、補助対象経費650円を加えて1,050円のお弁当から、町独自負担200円を補助して、600円のお弁当で民間委託しています。

高齢者に適した食事の配慮と確保はできていると思います。

今後は、利用者の声を聞きながら、対応できる分については事業者と話し合いをしていきます。